

【事例紹介】回復期での嚥下リハビリ

回復期病棟には嚥下障害を合併されている患者さんが多数入院されます。嚥下障害の患者さんも重症度は様々です。経管栄養の方、おかゆやゼリー食など食形態に調整が必要な方、食事の際に角度をつけないといけない方、一口量を少なくしなければいけない方など、食事が出来る方でも様々な条件が必要な場合があります。

この方は入院時はゼリー食で経管栄養を併用していましたが、退院時は常食となり細かな条件もなくなりました。この方を通して、嚥下障害の患者さんに対し当院回復期病棟で行っている取り組みを紹介します。



低周波治療器を使った嚥下訓練



頸部・体幹の筋力増強運動



定期的な嚥下の検査
(嚥下能力を確認し、適切な食形態や摂取方法を決めます)

この他にも歩行練習や反復起立運動など、全身運動も積極的に行っています。また退院に向けて自主トレや食事方法の指導も行っています。

豊田えいせい病院
リハビリ新聞



2020年
10月25日
第18号

院内研修会で研鑽

診療技術部では勉強会を定期的に行っています。最新の知識や技術を身に付け、患者さん・利用者さんに適切なリハビリテーションを提供できるように日々研鑽しております。

昨年度よりも各職種独自に勉強会を開いたり経験年数問わずに学べる場を設けるように心掛けています。



リハビリスタッフの勉強会



Zoom会議を利用した外部研修

食事の前に嚥下体操を！

～リハビリ小ネタ～

食欲の秋、ということで栗やさつまいも、秋の味覚を食べる機会が増えてきます。そこで、食事の前には嚥下体操を行い誤嚥を予防しましょう。

誤嚥は食べ始めのひと口目に起こりやすいので、食べる前に準備運動を行うと効果があります。

嚥下おでこ体操

へそをのぞき込むようにあごを引く。おでこに手根部を当てて、手とおでこで5秒間押し合う。



あご持ち上げ体操

下を向いて力いっぱいあごを引き、同時にあごの下に両手の親指を当てる。あごは下に指は上へと同時に力を入れ、押し合う状態を5秒間キープ。



食事前に5～10回ずつ！

【豊田えいせい病院通所リハビリ職員紹介】

- 理学療法士3名 作業療法士1名（兼務含め）
- 介護士10名（うち勤続年数10年以上8名）
- 事務員1名

豊田えいせい病院 診療技術部

回復期リハビリ科 TEL : 0538-34-6123 FAX : 0538-34-6231
療養リハビリ科 回復期リハビリ科と共通
通所リハビリ科 TEL : 0538-34-6223 FAX : 0538-34-6222
訪問リハビリ科 TEL : 0538-34-6137 FAX : 0538-34-6231